

課題「がん教育を推進するために必要なこと」

「これから、がん教育をどのように推進していけばよいでしょうか。
また、推進していく上での課題は？」

飯村 誠一

1981 年から、日本人の死因の第 1 位となっているのが、がんです。また、日本人の 2 人に 1 人は、生涯のうち、何らかのがんにかかるといわれています。このような状況が続くなか、学校でのがん教育に躊躇し、多くの学校でがん教育が実施されなかったことは、大きな課題だと考えます。

なぜ、躊躇することになってしまったのでしょうか。それは、ほとんどの学年、学級で、児童生徒の家族に、がんに罹患された方がいたからです。しかし、そのために、がん教育が行われなかったことで、新たな悲劇をうむことになってしまったことは否めません。

小学校では、「健康や命の大切さを知る」等のねらいで、全校で、少なくとも 6 年生にはがん教育を実施すべきだと考えます。

では、家族にがん罹患した人がいる児童生徒への配慮は、どうあるべきか。それは簡単なことではありません。

文部科学省、都教委の資料、他地域からの資料を参考にしながら、全国、どのような学校にも通用する最善の配慮を導き出していかなければなりません。

実施にあたっては、把握していない対象家族がいる可能性がありますので、学校だよりや保健だより等で、少なくとも一ヶ月前までに、全校、または対象の学年に、がん教育の大切さを知らせ、実施への協力を得るようにしていく必要があります。さらに、個別に丁寧な対応も必要です。それが、最善の配慮に繋がると考えます。